

オハイオ州フィンドレー大学奨学生レポート 9月 インターンシップが始まって

9月に入り、徐々に大学の知り合いや友達も増えてきてフィンドレーでの生活にも慣れてきました。今月の6日からインターンシップが始まったので、その紹介をしたいと思います。ニッシンブレーキでの初日は、社長の別府さんを初め、私達の上司である Jerry さん達に会い、インターンシップに向けての話を設けていただきました。私達のプロジェクトは、切削油をどう効率良くリサイクルしていくかということで、実際に切削油のリサイクルシステムの設計をし、コストや作業効率の算出も含めたプロジェクトを上司の Jerry さんに組んでいただきました。

2日目以降は、ニッシンブレーキオハイオの工場の仕組みを理解するためと、様々な修理の方法を学ぶために、エンジニアの Matt さん、Ron さんと同じスケジュールで行動させてもらいました。Matt さんと Ron さんの仕事は、生産ラインの機械にトラブルが生じたときに、その原因を突き止めて修理していくことです。工場はとても広く、同じ時間帯に複数の機械の調子が悪くなることもありました。さまざまなタイプの機械があり、故障の箇所や度合によって、どう修理するのかが変わってくる環境で、知識と経験をフルに生かし、困難に思える問題もあつという間に解決してしまう技術と判断力は、将来エンジニアを目指す私にとって、とても良い参考になりました。

仕事中は時間を有効利用するため、Matt さんと Ron さんは、私達日本人ともアメリカ人と接するように早口で会話をします。話の内容を理解するのにとても苦労しますが、わからないままで終われせることはしないようにと決めているので、必ず確認を取るようにと心掛けています。アメリカに来る前、英会話には自信があった私ですが、英語圏の現場で効率的に働くためには、さらなる英語力の向上が必要であるということを改めて実感させられました。



上司の Jerry さん

修理の様子

今月の週末に、クラスメイト達に勧められ、遊園地「シダーポイント」に行ってきました。シダーポイントは絶叫系のジェットコースターが揃っていて、ジェットコースターに今まで乗ったことがなかった私にとっては、すさまじく恐ろしいものでした。後でクラスメイトから聞いた話なのですが、私達が乗ったローラーコースターは世界で2番目に恐ろしいことで有名なシダーポイントの名物的なアトラクションだったそうです。恐ろしい思いをした反面、恐怖を共有したクラスメイト達と仲を深めることができたシダーポイントでの思い出は生涯の宝物になりました。

